

## 東淀川区区政会議 教育・子育て部会 議事概要

※枠内は委員意見、枠外は区役所職員

日時・場所 平成 29 年 6 月 23 日(金)午後 7 時から午後 9 時。東淀川区役所 3 階 304 会議室  
出席者 教育・子育て部会委員 11 名、他部会委員 3 名、府議会議員 1 名

### 議題 1 平成 28 年度東淀川区運営方針 自己評価について

#### 【3-1-1】読み聞かせ事業について

○読み聞かせは大切。一般・シニア向け読み聞かせ講座、ざぶとん読みについて教えてほしい。

- ・シニア向け講座は近くの保育所の児童に来てもらい、実践の形で既に実施済。約 30 名出席。
- ・一般向け講座は 7 月に実施予定。いろんな層の方に対し実施、自分のこども等に幅広く取り組んでもらう。多く参加してもらい、定着をしている。
- ・ざぶとん読みは今年度開始。区内の一部保育園に協力いただき、お迎え時にこどもと保護者が座って一冊読んで帰ってもらう。大学と連携し効果検証している。今後、区内の保育所に広め、家庭での読み聞かせ習慣を広げていきたい。

#### 【3-1-5】要保護児童対策地域協議会の充実について

○関係機関のアンケート評価を指標にしているが、解決できた割合などの評価ができないか。

- ・ケース会議を年間 100 回以上実施している。支援結果を類型化した数値は取っていないが、そういう視点も参考にさせていただきたい。

#### 【3-2-1】保育施設未入所児童解消への対応について

○未入所児童が増える中、保育所の増設で解消につながるのか。細かい検証はされているか。

○保育施設へ開所時間を延ばすなどの依頼取り組みをした結果の実績は。対応してもらえなかったのか、対応されても増えているのかで対策は変わる。もう少し細かい検証が必要では。

○年齢別の定員枠・希望者数等の経年変化の表があれば理解しやすい。資料として検討を。

- ・保育施設の需要が逼迫しているのは圧倒的に区の中心部から東部。淡路出張所に小規模保育所 1 か所、東部地域に 80 人規模の大規模 1 か所・小規模 2 か所の確保をめざしている。
- ・保育施設への開所時間延長依頼などの取り組みはしている。分析して施策展開していきたい。

#### 【3-2-2】多様な保育ニーズについて

○ほとんどの項目で目標達成しているなか、毎年一時保育の利用者数が上がらない。対象の方だけでなく、年齢層の高い方なども含め地域全体に広報しクチコミで広げてはどうか。

- ・地域ぐるみでの子育て機運を醸成していく。乳幼児健診等での周知など、幅広く周知していく。

### 議題 3 市政改革プラン 2.0（区政編）について

## 議題2 将来ビジョンたたき台について（ワークショップ）

### 「子どもとおとなが互いに元気になれるまちづくりについて」班

- 東井高野で子ども食堂始めたいと学校協議会・連合町会を通じて話を進めた。まずは居場所として連合の会館を借り、集めた本を読む地域図書館を月2回程度開く。大人も子どもも元気になる場をめざす。シルバーパワーを借り、老人クラブと連携して、折り紙やあやとりを教えるなどの取り組みもしていく。教えるほうも元気になるようにしたい。
- 豊新の鶏フェス・肉フェス。前回から障がい者の方もおられる施設のフェスティバルと一緒にしたら3倍くらいたくさんの子どもたちが集まるように。野球部のお母さんたちが焼き鳥屋を出すなど。たくさんの人が集まって顔見知りになれば、そこから信頼関係が広がる。
- スポーツを教えている。できるようになると自信になりそこから輪が広がる。種目は子どもたちに意見を聞き大人がプロデュース。
- 遊び場の確保は、学校開放するなど、学校や役所が緩衝材になってほしい。
- ただご飯を食べたり勉強するだけでなく、楽しくコミュニケーションできるイベント性があるといい。大人（保護者）と子どもと一緒に楽しめるといい。ただ地域であれもこれもは難しい。
- 3年前ゼロだった居場所が今は7つ。5年後の将来ビジョンは全小学校下にできるよう支援を。
- まず大人が元気になり、それを子どもたちにみせていかないといけない。区独自でスポーツ大会や体験会などつくってほしい。

・各地域の状況：豊里南は月1回100名程度、瓶井学園に学習支援協力も。菅原は月1回50食限定、毎回売切れ。

### 「すべての子どもが「生きる力」を身につける子育て、「共育」のまちづくり」班

- 「問題ある子だけでなく普通の子にも目を向ける」「好きなことは一生懸命する」（4月学習会）
- 自尊心向上にはほめてもらうこと。中学生クイズ大会もそう。トップアスリートなどの話を聞いたり交流し、頑張ればこういう人になれるかもというのが夢を持つきっかけになるのでは。
- 学校OBの有名人に来てもらうなど、東淀川から成功している人に話してもらうといい。
- その子の状況を全部把握したうえで個別に対応できるのが理想。その子の楽しいこと・頑張れることを見出してあげられるといい。大人も夢を持っておかないと子供に伝えられない。
- 家庭が根本で一番大事。家庭内の人数が減り孤立が進む。家庭教育の見直しも必要。親にでなく子どもに家庭が大事ということを教育することも。その子が親になるまで何十年もかかるが。
- 学校だけでは無理で、「向こう3軒両隣」が重要だが、現状地域が機能していない。地域の意識を変え、個別に声をかけ続ける努力が必要。
- 理想は、子どもたちそれぞれが自尊感情を持てるような環境づくりが必要。今の子は小さい単位の関係だけだが、地域で幅広い人間関係の中で自尊感情を育むことが大事。

・今まで地活協支援を中心としていたが、市政改革2.0（区政編）で、今後はもっと小さな単位、身近な住民同士の助け合いの支援を模索することをめざしている。

・広報紙・HPは見るとしか見ない。マスメディア手法は限界。口コミやSNS拡散が一番有効。

・昔はいろんな年代で縦社会にグループをつくり人間関係を学んだ。今は年代も関係も狭い範囲。（議員より）虐待や学力低下、貧困など様々な課題はこの「生きる力・自尊心」に行き着く。この対策が重要。「自分」「他者」「命」を大切にすることが減っている。親の環境・言葉で子どもは変わる。こうして話し合うことで、子どもたちが親になったときの日本が変わる。子どもの居場所は子どもが大事にされる場所であり、そういう経験を積んでもらえたい。